

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2022年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門	ライフステージ別栄養学	必修	1年前期	39名
専門	ライフステージ別栄養学実習	選択	1年前期	39名
専門	臨床栄養学実習	選択	2年前期	18名
教養	社会人入門3	必修	2年前期	17名
専門	健康栄養ゼミナール	必修	2年前期	5名
専門	ヘルスケアマネジメント	選択	1年後期	12名
専門	公衆栄養学概論	選択	2年後期	18名
専門	実践栄養士論	必修	2年後期	18名
専門	栄養指導論実習2	選択	2年後期	17名
専門	健康栄養ゼミナール	必修	2年後期	5名
教養	社会人入門4	必修	2年後期	17名

*科目区分：「教養」、「専門」、「教職」の3つから指定すること。

*種別：「必修」、「選択」の2つから指定すること。なお、選択必修は「選択」とする。

2. 教育の理念

各専門資格の取得という目標達成に向けて、学生が主体性を持って学習に取り組み、栄養士のみならず、フードスペシャリスト、健康管理士などの資格取得のための専門知識・情報の習得及び、資格取得とその質の充実を図ること。またその結果として卒業後に人間性豊かな専門職として公私共に健康に寄与できる社会人となるような学生を育成することが教育目標である。

3. 教育の方法

ライフステージ別栄養学では、各ライフステージの生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアの知識を理解し、各ライフステージにおける食事摂取基準を把握して、自分自身も望ましい食生活が送れるようになる事などを目標に、教科書のパワーポイントと各章の確認問題を解答させるようにした。

ライフステージ別栄養学実習では、各ライフステージ別に1回分(1食分)を調理し、栄養価計算、栄養比率の計算等のレポートの提出及び教員からの添削、返却を繰り返した。これにより実習での技能が習得できることを目指した。

臨床栄養学実習では、各治療食についてそれぞれ教科書を中心に講義と確認問題により理解を深め、次の週は調理実習において治療食の必要性と調理の工夫等、実践による技能の習得を図り、レポート提出と添削によるフィードバックを行った。

社会人入門3と社会人入門4では豊かな教養を身に付け、広い視野に立って主体的に判断ができる優れた社会人・生活者になることを目的として、短大での学びを充実としたものとした

ものとなるようにプログラムが順調にすすむように、また学生のコミュニケーション能力がみ
がけるように取り組み、出席票等により学生の理解度を把握した。

ヘルスケアマネジメントでは学生自身の授業中の学習態度と理解度の確認の為、前半はアン
ケート形式による学習評価票（質問含む）の提出を実施し、自己評価と質問に対するフィード
バックを行った。この科目はオムニバス形式であったが、全体のまとめとして各学生の健康・
食事に対する目標と実践と評価についてパワーポイントを使用した発表を行い、関連の教員で
その成果を評価した。

実践栄養士論では栄養士実力認定試験の模擬試験（講義の第1回目、第8回目、及び受験前
の合計3回）実施。過去問題集の回答と解説が中心であるが、模擬試験の各教科の点数の集計
を掲示及び、受験で目標とする点数とその対策方法についての報告書提出を実施した。併せ
て、各回の点数報告、模擬試験の点数報告等、目標点数の取得に対する意識向上にむけて働き
かけた。

公衆栄養学概論ではわが国と諸外国に健康・栄養問題の現状、課題、栄養政策などについて
教科書と補足説明のパワーポイントによる講義と理解度の把握の為、各章の確認問題の解答を
課題とした。

栄養指導論実習2では、臨床栄養学における各疾患のガイドラインや栄養管理方法を基に、
症例報告の方法・栄養指導の実践についての習得を目的に、PES報告や特定保健指導の実際
について演習と課題の添削等によるフィードバックにより指導を重ねた。

健康栄養ゼミナールでは、教員の方からスケジュールを提示したが、調べ学習や調理実習の
献立検討、調査集計等については学生の主体性も重視しながら、取り組んだテーマの結果の発
表に向けて指導した。

4. 教育の成果

ライフステージ別栄養学では、学生の自己評価として、「私はこの授業に意欲的、積極的に取
り組んだ」という回答が、満点（6点）の88%と概ね良好な結果であった。（エビデンス1）

ライフステージ別栄養学実習では学生の自己評価として、「私はこの授業に意欲的、積極的に
取り組んだ」という回答が、満点（6点）の88%で概ね良好な結果であった。（エビデンス1）

臨床栄養学実習では学生の自己評価として、「私はこの授業に意欲的、積極的に取り組んだ」と
いう回答が、満点（6点）の88%で概ね良好な結果であった。（エビデンス1）

ヘルスケアマネジメントでは後期の定期試験の成績にて評価を行ったところ、Aは50%、B
は42%及びCは8%と比較的良好な結果であった。（エビデンス2）

実践栄養士論については、この科目は栄養士実力認定試験の過去問対策であり、認定試験の
結果で認定Aの学生が82.3%、認定Bは17.7%と前年度と比較して大幅に成績がアップした。
高得点の学生が増えて学生自身の自信に繋がったので、結果的に大変良かったと感じていると
ころである。（エビデンス3）

公衆栄養学概論では「私はこの授業に意欲的、積極的に取り組んだ」という回答が、満点（6
点）の89%と良好な結果であった。（エビデンス1）

栄養指導論実習2では、「私はこの授業に意欲的、積極的に取り組んだ」という回答が、満点
（6点）の89%で良好な結果であった。（エビデンス1）

5. 今後の目標

事前事後学習を主体的に行うことにより学生の学習成果も向上すると思われる為、今後の事前
学習として、教科書の該当範囲のレポート提出や調べ学習を課題としていきたい。また、事後学

習として、従来から実施している確認問題の回答や実習レポートの提出及びフィードバックを継続して行い、専門知識の習得・定着にむけて充実を図りたい。実践栄養士論では、栄養士実力認定試験での好成績を維持する為、苦手な過去問題について対策を強化しながら、定期試験も導入していきたい。健康栄養ゼミナールでは、学生自ら研究テーマの設定と発表に向けてまとめることができるように授業開始の早期に論文作成にむけた資料収集及び分析などの具体的提示をしていくように計画している。

6. 根拠資料

1. 授業評価アンケート結果
2. 定期試験結果（非公開）
3. 栄養士実力認定試験結果